

政治手法としてのマス・メディア

1、はじめに

前回の事前勉強会では小選挙区制の導入や省庁再編などの政治制度改革により首相の権限が強まったことを示した。だが、小泉政権を高い支持率で支え、政権を長期化させた要因は他にないのだろうか。今回は他の要因をマス・メディア¹に求め、一つの仮説を立てることにする。

仮説：小泉首相のマス・メディアを用いた手法が、政権を維持させる要因となった… (α)

本勉強会では (α) を立証するため、いかなるメカニズムによりマス・メディアが小泉政権維持に貢献したのかを第2章で考察する。第3章以降では視点を変え、マス・メディアが持つ否定的なイメージに批判を試み、ひとつの政治手法として、小泉首相が用いたマス・メディアの利用法とその効用を見ることにする。

2、マス・メディアは政治をどう動かすか

☆ 前提：マス・メディアは世論形成を左右する。

政治報道がなされれば、何らかの形で現政権の今後が左右される。

→ では、小泉政権に特殊な（他の政権とは異なる）マス・メディアの果たした働きとは何か。

i) 小泉型ポピュリズム？

- 「善」と「悪」などの二元論を用いて、大衆側の立場であることを強調。

ii) 首相と国民との距離を縮めるようなアピール

- 首相への親近感を高め、好感を与える。

¹ なお、多様なマス・メディアすべてを想定しながら考えるのは避け、特に断りがない限り今回扱うマス・メディアはテレビを想定することとする。

3、メディア批判に対する批判

- ① 小泉批判の封殺？
- ② 「沈黙の螺旋理論」の虚構
 - ・ 郵政民営化は全く関心のない話題か？
 - ・ 国民は民営化を支持

4、一つの政治手法としてのマス・メディア

小泉首相が用いた、テレビによる支持獲得法と効果

- ・ 「ぶら下がり」とは異なる一言アピールを慣習化
 - ・ メールマガジン
- 首相に対する親近感・好感を喚起
-
- ・ 悪 = 従来の自民党、国営郵便局 善 = 「改革」という二元論の強調
- 「非エリート」や一般の人からの支持を獲得

5、おわりに

- ・ 小泉型マス・メディア手法を新政権はどう活かすのか？

【参考文献】

- ・ 草野厚『テレビは政治を動かすか』（NTT 出版、2006）
- ・ 星浩・逢坂巖『テレビ政治—国会報道から TV タックルまで』（朝日選書、2006）
- ・ 大嶽秀夫『日本型ポピュリズム—政治への期待と幻滅』（中公新書、2003）
- ・ 竹中治堅『首相支配—日本政治の変貌』（中公新書、2006）